



週間情報



No.3041

発行日 平成30年10月30日

発行所 全国消防長会

一般財団法人 全国消防協会

担当 企画部企画課 03(3234)1321

両会の動き

◆ 第3回大阪府下消防活動事例発表会を開催

大阪府下消防長会警防救急委員会

大阪府下消防長会警防救急委員会では、平成30年10月11日(木)、大阪市消防局において、大阪府内消防職員の消防活動に関する知識及び技術の共有を目的として、第3回大阪府下消防活動事例発表会を開催し、府内職員約260人が参加しました。

今後の警防活動において参考になる各種事例の発表があり、大変有意義な発表会となりました。

【発表事例】

- 木造2階建て共同住宅火災における消防活動
堺市消防局
- 店舗付共同住宅の建物火災における消防隊の活動について
池田市消防本部
- 強風時における住宅密集地での長屋住宅火災事案
東大阪市消防局
- 無窓建築物の工場火災
泉州南消防組合泉州南広域消防本部
- ドローン隊の運用開始と活動事例
富田林市消防本部
- 金属粉火災
大阪市消防局

【消防講座】

西日本豪雨における緊急消防援助隊大阪府大隊の活動状況について
大阪市消防局



【発表会の様子】

◆ 群馬県消防長会予防関係研修会を開催

群馬県消防長会

群馬県消防長会では、平成30年10月12日（金）、桐生市市民文化会館において火災調査特別講演会を、また、10月19日（金）、高崎市市民活動センターソシアスにおいて予防部会研修会を開催し、県内11消防本部（局）より、延べ338名の職員が参加しました。

火災調査特別講演会（火災調査部会）では、消防研究センター火災災害調査部原因調査室より近江主任調査官を招き、実際の火災調査事例及び鑑識事例を交え、火災調査の進め方や鑑識要領等について講演していただき、参加した各消防本部（局）職員の火災調査に係る知識の向上を図ることができました。

予防部会研修会（予防部会）では、滋賀県湖南広域消防局予防指導課より、八木講師を招き、「消防目線の査察行政からの脱却～違反公表制度と告発事案～」と題して講演をしていただきました。

八木講師の熱弁を受け、参加した各消防本部（局）職員の違反処理に対する意欲・知識の向上を図ることができました。



【火災調査特別講演会の様子の様子】



【予防部会研修会の様子】

◆ 法制執務研修会を開催

全国消防長会

全国消防長会では、愛媛県松山市（にぎたつ会館）及び神奈川県厚木市（神奈川県総合防災センター消防学校）において渉外を担当している職員等を対象として法制執務研修会を開催しました。

消防本部内のリスク管理及びコンプライアンスの充実を図るため、全国消防長会顧問弁護士の木下健治氏を講師に招き、災害活動業務やパワーハラスメントに関する判例等についてご講義いただきました。研修会の後には、全国消防保険サービス株式会社から、消防職員賠償責任保険等についてご説明いただきました。

法制執務研修会については、今後も実施したい支部や都道府県消防長会がありましたら、各支部を通じて事務局あてに申請してください。

【主催、開催日等】

- 1 主催 : 全国消防長会・愛媛県消防長会
開催日 : 平成30年10月26日（金）
開催場所 : 愛媛県松山市（にぎたつ会館）
参加者 : 14消防本部67名
- 2 主催 : 全国消防長会・神奈川県消防長会
開催日 : 平成30年10月29日（月）
開催場所 : 神奈川県厚木市（神奈川県総合防災センター消防学校）
参加者 : 23消防本部64名



【法制執務研修会（愛媛県）の様子】



【法制執務研修会（神奈川県）の様子】

消防本部の動き

行事

◆ 三芳町倉庫火災消防活動報告会を実施

入間東部地区事務組合消防本部（埼玉）

入間東部地区事務組合消防本部では、平成30年10月12日（金）、ふじみ野市の大井中央公民館で、三芳町倉庫火災消防活動報告会を実施しました。

この報告会は、昨年2月に当消防本部管内で発生した大規模倉庫の火災を受け、同種の災害に万全を期すための一助となるべく、県内消防本部向けに、同火災の災害実態、消防活動概要及び火災調査概要について、情報共有を図ることを目的として開催したものです。

当日は、県内26消防本部及び埼玉県危機管理防災部から計408名の方に参加していただき、各担当からの報告及び質疑応答を行いました。

今後、様々な形態の大規模倉庫の建設が想定されるため、同火災を教訓として、適切な防火対策の実現に努めていきます。



【報告会の様子】

◆ 第11回ふれあい防災イベントを開催

久留米広域消防本部（福岡）

久留米広域消防本部久留米消防署及び久留米市防災協会連合会は、平成30年10月14日（日）、久留米シティプラザにおいて、市民の防災意識高揚を図るため、「第11回ふれあい防災イベント」を開催しました。

ステージ上では、消防音楽隊及び幼年消防鼓笛隊の演奏、消防職員による消防ショー等を行いました。

その他、消防団の梯子乗り、炊き出しおにぎり及びカレーの配布、ふわふわ消防車、スタンプラリー等もあり、見て、触れて、体験して、子供から大人まで楽しんでいただき、約5,200人もの入場者で賑わいました。



【イベントの様子】

訓練・演習

◆ 西枇杷島警察署合同多数傷病者対応訓練を実施

西春日井広域事務組合消防本部（愛知）

西春日井広域事務組合消防本部では、平成30年10月10日（水）、清須市庄内川右岸堤防（西枇杷島町多目的広場リバーランド）内において、東消防署及び西消防署から指揮隊、救助隊及び救急隊計60名、西枇杷島警察署から計9名が参加し、多数傷病者対応訓練を行いました。

訓練内容は、国道交差点内において、大型観光バスが横転して多数傷病者が発生したとの想定で、要救助者の救出から多数傷病者のトリアージ、応急救護所の運用まで、一連の流れと動きを確認しました。

今回で5回目となるこの訓練は、想定を毎回変えるとともにより大規模な訓練とし、更に実災害に近い実践的な訓練となってきました。今回も、管内の西枇杷島警察署に訓練参加を依頼し、相互の連携についても確認することができました。

この訓練を通じ、今後の課題や改善点などが把握でき、とても有意義なものとなりました。

今後も、多数傷病者災害対応能力の向上を図り、実際に多数傷病者が発生するような災害があった場合は、迅速かつ安全に傷病者の救出にあたり、地域住民の安心・安全の確保に努めていきたいと思えます。



【訓練の様子】

◆ 東北自動車道埼玉県消防連絡協議会合同訓練を実施

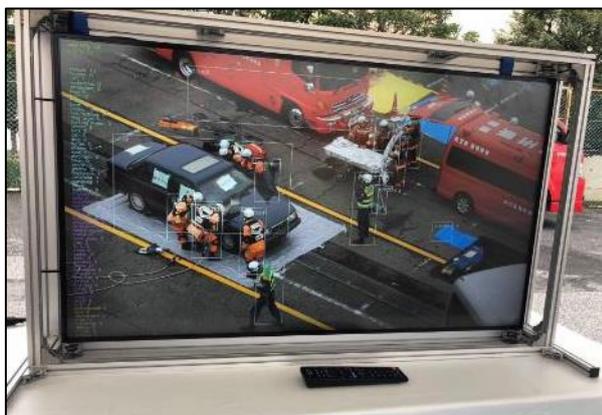
川口市消防局（埼玉）

川口市消防局では、平成30年10月11日（木）、川口オートレース場駐車場において、関係機関の連携強化を目的とした合同訓練を実施しました。

当訓練には、東北自動車道埼玉県消防連絡協議会会員である当消防局、埼玉東部消防組合消防局（埼玉）、さいたま市消防局（埼玉）、蓮田市消防本部（埼玉）、羽生市消防本部（埼玉）、館林地区消防組合消防本部（群馬）及び東日本高速道路㈱関東支社加須管理事務所の7機関と、埼玉県警察本部高速道路交通警察隊及び川口市立看護専門学校計9機関が参加しました。

当訓練では、高速道路本線上で車両複数台の関係する多重交通事故により車両火災が起り、多数の負傷者が発生したとの想定で、消火活動から負傷者搬送まで、各機関の連携した活動を実施し、連携強化を図ることが出来ました。

また、当消防局とドローンの連携に関する協定を締結している株式会社イームズラボにより、ドローンによる上空からの作業監視、AIによる人や車両のリアルタイム判定及びUGV（無人車両）によるホース延長・放水も実施しました。



【AIによる人と車両との判定画面】



【無人放水車による放水】

◆ 平成30年度救急総合想定訓練を実施

埼玉県央広域消防本部（埼玉）

埼玉県央広域消防本部では、平成30年10月9日（火）から12日（金）の4日間、当消防本部救急隊全20隊を対象に、窒息、大量出血（動脈性）、心疾患及び高層階居住者の吐血の4想定から、救急隊には想定を伏せた状態で救急活動を評価する救急総合想定訓練を実施しました。

今回の訓練の主眼は、救急隊の現場対応能力の向上及び救急活動プロトコルの再確認を目的とし、活動後は指導救命士が主体となり、活動に対してのフィードバックを行いました。

当訓練は、今年で3回目の実施となりますが、今後も継続して実施することにより、現場対応能力を更に向上させ、地域貢献に繋げてまいります。



【訓練の様子】

◆ 特別防災区域で総合防災訓練を実施

今治市消防本部（愛媛）

今治市消防本部西消防署では、平成30年10月16日（火）、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構菊間国家石油備蓄基地において、大規模地震の発生を想定した総合防災訓練を実施しました。

当訓練は、当消防署及び菊間分署、当該事業所自衛防災組織、菊間地区協同防災組織、波方ターミナル株式会社、今治海上保安部等の防災関係機関が、連携強化に向け毎年実施しています。

訓練では、発生が危惧されている南海トラフ地震を想定して、陸上訓練において、原油タンク配管や防油堤亀裂等からの漏洩応急処置、事業所トンネル落盤（模擬）による負傷者の救出救護、タンク火災発生に伴う冷却散水及び泡放射（訓練のため放水を実施）による消火活動等と住民への広報、海上訓練では原油の海上流出に伴うオイルフェンス設置や流出油回収及び拡散等を実施しました。

今後も、防災関係機関と事業所が連携した総合防災訓練を積み重ね、顔の見える関係による災害対応の連携強化及び防災意識の高揚に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 滋賀県建設業協会湖南支部と連携訓練を実施

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、平成30年10月17日（水）、局所災害時の消防活動支援に関する協定を締結している滋賀県建設業協会湖南支部と連携訓練を実施しました。

この連携訓練は、今年で7回目の実施となり、今回は、「土砂崩れにより建物が下敷きになり、4名の要救助者が発生している」との想定で、重機を使った道路啓開や重量物の除去を行うとともに、土砂に埋まっている要救助者を一方掘り要領にて効率的に土砂を除去し、迅速に救出しました。

当訓練の実施により、建設業協会との情報共有、相互理解及び連携強化につながり、大規模災害対応能力の向上を図ることができました。

今後も、訓練を継続し、両組織の更なる連携強化に努めます。



【重機を使った道路啓開】



【一方掘り要領による土砂の除去】

◆ 関越自動車道埼玉県消防連絡協議会合同訓練を実施

埼玉西部消防局（埼玉）

関越自動車道埼玉県消防連絡協議会（事務局：埼玉西部消防局（埼玉）、訓練企画担当：朝霞地区一部事務組合埼玉県南西部消防本部（埼玉））では、平成30年10月17日（水）、関越自動車道高坂サービスエリアにおいて、合同訓練を実施しました。

訓練想定は、「関越自動車道上り線所沢ICから新座料金所間において、タンクローリー、マイクروبス及び普通乗用車数台による多重衝突事故が起こり、タンクローリーから毒物が漏洩し、さらに、脱出不能者を含む多数の負傷者が発生した。」としました。

この事故に対し、当協議会の応援協定に基づき、県内10消防本部（局）、東日本高速道路株式会社関東支社、埼玉県警察本部交通部高速道路交通警察隊、埼玉DMAT（2隊）及び埼玉県防災航空隊の計15団体が連携して対応し、毒物の検知、多数傷病者の効率的救護等を行いました。

訓練には各関係機関より計160名が参加し、重大事故に対する連携の強化を図りました。



【訓練の様子】

◆ 機能別消防団水上バイク隊と水難救助合同訓練を実施

うるま市消防本部（沖縄）

うるま市消防本部では、平成30年10月18日（木）、管内海域において、当市消防団の水上バイク隊と合同訓練を実施しました。

水上バイク隊は、平成28年度に県内で先駆けて発足した機能別団員で構成され、初動の機動力を生かし、水難事故や行方不明捜索等を任務とするもので、今年度においても3件の水難救助要請に出動し、活動しています。

訓練では、水上バイクの入水要領や要救助者の救助法等を実施し、互いの技術を提供する事で、連携強化へと繋がりました。



【訓練の様子】



【訓練後の集合写真】

研修等

◆ 講習会「水素エネルギー社会の実現と安全性」を開催

神戸市消防局（兵庫）

神戸市消防局では、平成30年10月18日（木）、高圧ガス保安促進週間の期間にあわせ、「水素エネルギー社会の実現と安全性」と題し、主に消防職員向けの講習会を、神戸市役所において開催しました。

当講習会は、当市が推進している「水素スマートシティ神戸構想」の一つの事業として、当市神戸空港島で、世界でも類を見ない液化水素基地の建設が進められていることから、水素の基礎知識をはじめ、液化水素基地の概要及び防災体制の把握を目的に開催したものです。

事業主体者の技術研究組合CO₂フリー水素サプライチェーン推進機構（HySTRA）のほか、川崎重工業株式会社及び岩谷産業株式会社から計5名の講師にお越しいただきました。

今後も、増加が見込まれる水素関連施設における消防活動等について研鑽に努め、安全・安心な水素社会を実現するために貢献してまいります。



【研修の様子】



【建設中の液化水素基地のイメージ】

◆ 違反是正の推進に係る実務研修【区分B】報告会を開催

稲敷広域消防本部（茨城）

稲敷広域消防本部では、10月19日（金）、違反是正の推進に係る実務研修【区分B】報告会を開催いたしました。

昨年度、総務省消防庁主催の違反是正の推進に係る実務研修【区分B】に伴い、当消防本部が受入消防本部として、正式に参加申請をした県1本部、また、併せて受講希望2本部の計4名が、5日間の研修に参加しました。

この研修報告会は、実務研修に参加した研修生の研修受講後の成果を報告する場として開催し、多くの聴講者にその成果を披露することができました。

また、全国違反是正支援アドバイザーを迎え、各発表内容に対して的確な助言を頂きました。

研修生は、実務研修で学んだことを所属の各消防本部へ持ち帰り、抱えている違反是正の案件に対して取り組んだこと、今後の課題等を発表していました。警告・命令への流れだけではなく、研修によって個々の違反是正案件へのアプローチが、それぞれの消防本部の査察指導業務に影響を与えていることがうかがえました。

今回の研修報告会を通して、各消防本部の違反是正への取り組み事例や成果を学ぶとともに、違反是正推進への大きな一歩を踏み出すことができました。



【報告会の様子】

◆ 星野少年消防クラブ秋季研修を実施

八女消防本部（福岡）

八女消防本部では、平成30年10月20日（土）、八女市星野公民館において、八女市星野少年消防クラブ秋季研修を実施しました。

今回の研修では、救急訓練及びロープ結索訓練を行なったほか、消火活動で使うホースを知ってもらうため、ホース展張ボウリングを行いました。

救急訓練では、心肺蘇生法を学び、胸骨圧迫及び人工呼吸について、正しい知識を身につけてもらいました。ロープ結索訓練では、ロープとロープを繋ぎ合わせる本結び、物を巻きつけるときに使う巻き結びを学び、ホース展張ボウリングでは、チーム対抗戦で競い合い、互いに懇親を深めることができました。

この研修で覚えた知識・技術を、今後の防災に生かしてほしいと思います。



【ロープ結索訓練】



【ホース展張ボウリング】

その他

◆ 他都市女性消防団との意見交換会を開催！！

小田原市消防本部（神奈川）

小田原市消防本部では、横浜市消防局保土ヶ谷消防署と連携して、平成30年10月12日（金）、小田原市消防本部において、双方で活躍する女性消防団員との交流を図るため、意見交換会を開催しました。

当日は、両市の女性消防団員が抱える様々な課題について、活発な意見を交換しました。

意見交換会では、双方の組織概要を確認したほか、女性団員ならではの視点で、「これからの女性団員活動について」、「女性団員の活性化について」、「出産、育児、介護等で消防団活動が困難な団員への対応について」等をテーマに話し合いました。

現在、小田原市消防団員752名のうち20名、保土ヶ谷消防団397名のうち70名が女性消防団員として活躍しています。

小田原市消防団は、平成30年4月1日時点、消防団員充足率100%となります。

なお、横浜市でも、平成30年度に消防団員充足率100%を目指しており、消防署と消防団が連携して、消防団員募集に取り組むとともに、女性消防団員の更なる躍進を支援しています。



【横浜市の女性消防団員】



【小田原市の女性消防団員】

◆ 水難事故における消防協力者の表彰式を実施

呉市消防局（広島）

呉市消防局では、平成30年10月16日（火）、管内で発生した水難事故において、救助活動、119番通報及び一次救命処置を躊躇なく連携して行った市民3名の功績を称え、消防長から表彰状を贈呈しました。

当事案は、平成30年8月18日（土）、呉市内の海水浴場で、男性2名が、海上にうつぶせになって浮いていた小児1名を発見し、わきを抱えて泳ぎ砂浜まで搬送・救出し、119番通報しました。その後、女性1名が、心肺停止状態であることを確認し、救急車が到着するまでの間、人工呼吸及び胸骨圧迫を行いました。

3名の適切な対応により、救急隊引継時には心拍・呼吸が再開し、一命を取りとめ、無事に退院されたものです。



【表彰式後の記念写真】

◆ 災害時における必要な用水等の供給に関する協定を締結

森町消防本部（北海道）

森町消防本部では、平成30年10月17日（水）、北海道北渡島生コンクリート協同組合との間で、「災害時における必要な用水等の供給に関する協定」を締結し、併せて協定調印式を実施しました。

この協定の締結により、大規模災害等が発生した際、コンクリートミキサー車により、災害現場等へ飲料水を除く生活用水及び消火用水を搬送し、給水活動の協力を得ることが可能となりました。協定の締結後も、迅速な災害対応に向け、連携訓練等を行なっていくこととしています。

今後も、町民の生命、身体及び財産を守るため、災害体制の充実に向け、関係団体との協力体制を進めます。



【調印式の様子】



【調印式後の記念写真】

◆ 横浜市戸塚消防団の魅力伝える広報紙とリーフレットを作成！

横浜市消防局（神奈川）

横浜市戸塚消防団では、横浜市消防局戸塚消防署と連携して消防団の魅力をもPRするための広報紙及びリーフレットを作成しました。平成30年11月1日(木)から、戸塚区内の防災訓練等各種イベントの際に、地域住民への配布を開始します。

当広報紙は、戸塚消防団内に新設した広報部の団員19名が中心となり、数回の作業部会を経て、第1号の完成に至りました。上半期の主な活動及び戸塚消防署とコラボして実施した各種イベントの様子を掲載するとともに、消防団がより地域に親しみやすく感じてもらえるよう、団員紹介のコーナーも設けました。

また、リーフレットでは、比較的若い子育て世代及び将来の地域防災の担い手となる中高生が手に取りやすいよう、マンガで消防団の魅力を紹介しています。

今後も、消防団と消防署が一丸となって、魅力ある戸塚消防団を積極的にPRするとともに、消防団員の加入促進を強力に推進していきます。



【戸塚消防団広報部のみなさん】



【リーフレット（左手前）・広報紙（右奥）】

消防学校からの便り

◆ 惨事ストレス研修会を開催

青森県消防学校

青森県消防学校では、平成30年10月17日（水）、第37回消防職員専科教育救助科において、惨事ストレス研修会を開催しました。

当研修会では、消防職員の惨事ストレスの要因及びその対応方法について理解を深め、職場におけるメンタルヘルス対策に役立てることを目的に、兵庫県こころのケアセンター研究主幹大澤智子氏を講師にお招きし、救助科学生及び青森県内聴講希望者約100人に対し、特別講義を実施しました。

消防職員特有の災害現場におけるストレスについて、惨事ストレスを引き起こしやすい状況や予後を悪くする要因など、特に組織全体での見守りが重要であることのアドバイスを頂き、非常に有意義な研修会となりました。



【研修会の様子】

報道発表

◆ 「消防防災科学技術研究推進制度」平成31年度研究開発課題の募集

(平成30年10月25日、消防庁)

「消防防災科学技術研究推進制度」は、消防防災行政に係る課題解決や重要施策推進のための研究開発を委託する競争的資金制度です。

平成31年度は、近年の自然災害の増加や高齢社会の到来、社会資本の老朽化などを踏まえて、消防防災分野における課題を解決するため、ICT等を活用した研究開発テーマを設定し、下記(一部省略)のとおり研究開発課題を募集します。

1. 募集期間

平成30年10月25日(木)～平成30年12月20日(木) 17時まで

—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/10/301025_houdou_1.pdf)に掲載されています。

< 担当 >

消防庁総務課(消防技術政策担当)

田中・佐藤

Tel: 03-5253-7541 Fax: 03-5253-7533

Mail: gisei2@ml.soumu.go.jp

◆ 平成30年9月の熱中症による救急搬送状況

(平成30年10月25日、消防庁)

熱中症による救急搬送人員数について、平成30年9月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概要

- 平成30年9月の全国における熱中症による救急搬送人員数の累計は2,811人でした。

昨年同期間の2,098人と比べると713人増となっています。

- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、初診時における傷病程度別、発生場所ごとの項目別の内訳等については次の通りです。

・ 年齢区分別にみると、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児、新生児の順となっています。

・ 初診時における傷病程度別にみると、軽症(外来診療)が最も多く、次いで中等症(入院診療)、重症(長期入院)、死亡の順となっています。

・ 発生場所ごとの項目別にみると、住居が最も多く、次いで公衆(屋外)、道路、教育機関の順となっています。

※公衆(屋外)とは、不特定者が出入りする場所の屋外部分

・ 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数は、沖縄県が最も多く、次いで鹿児島県、和歌山県、宮崎県、長崎県の順でした。

—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/10/301025_houdou_2.pdf)に掲載されています。

(連絡先)

消防庁救急企画室

担当: 小谷、小川、中西

電話: 03-5253-7529

FAX: 03-5253-7532

◆ 平成30年（5月から9月）の熱中症による救急搬送状況

（平成30年10月25日、消防庁）

熱中症による救急搬送人員数について、平成30年5月から9月までの確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成30年5月から9月の全国における熱中症による救急搬送人員数の累計は95,137人でした。昨年同期間の52,984人と比べると42,153人増となっています。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、初診時における傷病程度別、発生場所ごとの項目別の内訳等については次の通りです。
 - ・ 年齢区分別にみると、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児、新生児の順となっています。
 - ・ 初診時における傷病程度別にみると、軽症（外来診療）が最も多く、次いで中等症（入院診療）、重症（長期入院）、死亡の順となっています。
 - ・ 発生場所ごとの項目別にみると、住居が最も多く、次いで道路、公衆（屋外）、仕事場①の順となっています。
 - ※公衆（屋外）とは、不特定者が出入りする場所の屋外部分
 - ※仕事場①とは、道路工事現場、工場、作業所等
 - ・ 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数は、岡山県が最も多く、次いで群馬県、岐阜県、奈良県、三重県の順でした。

—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/10/301025_houdou_3.pdf) に掲載されています。

(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：小谷、小川、中西
電話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7532

情報提供

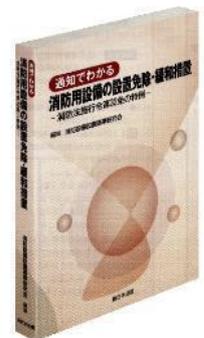
◆ 消防関連図書の斡旋について

一般財団法人 全国消防協会

この度、本協会の指定店登録業者である、新日本法規出版株式会社の新刊書「通知でわかる 消防用設備の設置免除・緩和措置—消防法施行令第32条の特例—」を斡旋することとなりました。

本協会会員（消防職員）限定で、通常価格より10%割引の特価で販売され、また2書籍以上お申し込みの場合は送料が無料となります。

書籍や申し込み方法等の詳細につきましては、10月号のほのお・会報便にご案内資料を同梱いたしましたので、職員の皆様にご周知いただき、実務手引書としてご活用くださいますようお願い申し上げます。



【問い合わせ先】

業務課

担当：^{ほの}河野、石井（健）

電話：03-3234-1321

◆ 消防本部の住所変更等について

94506 杵藤地区広域市町村圏組合消防本部（佐賀）
新郵便番号 : 843-0024
新住所 : 佐賀県武雄市武雄町大字富岡12634番地1
変更理由 : 新庁舎移転のため
変更日 : 平成30年11月1日

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人 全国消防協会では、平成31年5月を目途に機関誌「ほのお」を一部改編することとしており、次のとおり試行（2019年3号までの試行）として、新しいコーナーの記事を募集しています。

- ① 知識・技術の伝承-教えて！消防技術-
- ② 女性職員の活躍・推進

執筆要領等の詳細は、週間情報No.3032又は機関誌「ほのお」2018年9号29頁を参照願います。

なお、消防ワイドについても随時、記事を募集しておりますので、引き続きご投稿お待ちしております。※消防ワイドは、150文字程度の原稿及びJPEG画像データをhonoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

TEL : 03-3234-1321（機関誌「ほのお」担当：原）

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL : 03-3234-1321 FAX : 03-3234-1847 E-mail : weekly@fcaj.gr.jp